

201221012B

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究

平成22～24年度 総合研究報告書

研究代表者 奥坂 拓志

平成25（2013）年3月

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究

平成22～24年度 総合研究報告書

研究代表者 奥坂 拓志

平成25（2013）年3月

## 目次

### I. 総合研究報告

切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究 ----- 1

奥坂 拓志

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 18

III. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 29

# 厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

## 研究報告書

### 切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究

研究者代表者 奥坂 拓志 国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科長

研究要旨：胆道がんは我が国のがん死亡数の第6位を占めており、また切除不能胆道がんの予後はきわめて不良であるため、より有効な非手術療法の開発が求められている。本研究班では「進行胆道がんを対象としたゲムシタビン+S-1併用療法とS-1単剤療法のランダム化第II相試験（JCOG0805）」を完了し、今後次相試験としての「進行胆道がんを対象としたゲムシタビン+シスプラチン併用療法とゲムシタビン+S-1併用療法（GS療法）の第III相比較試験（JCOG1113）」が開始予定である。さらに現在、「切除不能・再発胆道癌を対象としたゲムシタビン+CDDP+WT1ペプチドワクチン併用化学免疫療法とゲムシタビン+CDDP治療の第I/II相試験」が進行中である。

#### A. 研究目的

切除不能胆道がん患者の予後はきわめて不良であり、その生存期間を向上するためには新しい有効な治療法の確立が必要である。S-1は本邦で開発された新しい抗がん剤であり、切除不能胆道がんに対してもその有用性が期待されている。S-1の一次治療薬としての有効性を検討するために、「進行胆道がんを対象としたゲムシタビン+S-1併用療法とS-1単剤療法のランダム化第II相試験」を開始した。この試験により有用性が期待できるレジメンを慎重に選択したのちに第III相試験を実施して、切除不能胆道がんに対する標準治療法を確立する。また、本研究班では国内外で開発が期待されているWT1ペプチドワクチンを用いた臨床試験も開始し、本疾患に対する有効性と安全性を評価する。

#### B. 研究方法

(1) 「進行胆道がんを対象としたゲムシ

タビン+S-1併用療法とS-1単剤療法のランダム化第II相試験（JCOG08805）」について：

〔研究形式〕多施設共同のランダム化第II相試験、プライマリーエンドポイントは1年生存割合。

〔対象症例〕切除不能胆道がんの未治療例、PS 0または1、骨髄・肝・腎などの主要臓器機能が保持され、十分な説明後に本人より文書で同意の得られた症例。

〔症例の登録〕JCOGデータセンターによる中央登録方式とする。

〔治療内容〕S-1単独療法群ではS-1をday 1-28に連日経口投与する。これを6週毎に原疾患の悪化または毒性のため中止するまで継続する。S-1とゲムシタビンの併用療法群ではゲムシタビンを経口投与し、S-1はday 1-14に連日経口投与する。これを3週毎に原疾患の悪化または毒性のため中止するまで継続する。

〔予定症例数〕症例数100例、症例集積期間2年を予定。

〔研究の第三者的監視〕JCOGに所属する研究班は共同で、Peer reviewと外部委員審査を併用した第三者的監視機構としての各種委員会を組織し、科学性と倫理性の確保に努めている。本研究も、JCOGのプロトコール審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会、などによる第三者的監視を受けることを通じて、科学性と倫理性の確保に努める。

(2) 「進行胆道癌を対象としたゲムシタビン+シスプラチン併用療法（GC療法）とゲムシタビン+S-1併用療法（GS療法）の第III相比較試験（JCOG1113）」について：〔研究形式〕多施設共同のランダム化第III相試験、プライマリーエンドポイントは全生存期間。

〔対象症例〕切除不能胆道がんの未治療例、PS 0または1、骨髄・肝・腎などの主要臓器機能が保持され、十分な説明後に本人より文書で同意の得られた症例。

〔症例の登録〕JCOGデータセンターによる中央登録方式とする。

〔治療内容〕ゲムシタビンとシスプラチンの併用療法群ではゲムシタビン、シスプラチンともにday 1, 8に静注投与する。ゲムシタビンとS-1の併用療法群ではゲムシタビンをday 1, 8に静注投与し、S-1はday 1-14に連日経口投与する。いずれのレジメンも3週毎に原疾患の悪化または毒性のため中止するまで継続する。

〔予定症例数〕症例数350例、症例集積期間4年を予定。

〔研究の第三者的監視〕JCOGに所属する研究班は共同で、Peer reviewと外部委員審査を併用した第三者的監視機構としての各種委員会を組織し、科学性と倫理性の確保に努めている。本研究も、JCOGのプロトコール審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会、などによる第三者的監視を受けることを通じて、科学

性と倫理性の確保に努める。

(3) 「切除不能・再発胆道癌を対象としたゲムシタビン+CDDP+WT1ペプチドワクチン併用化学免疫療法とゲムシタビン+CDDP治療の第I/II相試験」について：

〔研究形式〕多施設共同の第I相/ランダム化第II相試験、プライマリーエンドポイントは1年生存割合。

〔対象症例〕切除不能胆道がんの未治療例、PS 0または1、骨髄・肝・腎などの主要臓器機能が保持され、十分な説明後に本人より文書で同意の得られた症例。

〔症例の登録〕NPO日本臨床研究支援ユニットによる中央登録方式とする。

〔治療内容〕3週1コースとしてゲムシタビン、CDDPをday1, day8に投与し、day15は休薬する。WT1ペプチドワクチン群はWT1ペプチドワクチンをゲムシタビン、CDDPと同日に投与する。なお、CDDPは治療開始から最大24週まで、ゲムシタビンとWT1ペプチドワクチンはプロトコール治療中止基準に該当するまで治療を継続する。

〔予定症例数〕106例（第I相6例、第II相100例）、症例集積期間2年を予定。

倫理面への配慮

参加患者の安全性確保については、適格条件やプロトコール治療の中止変更規準を厳しく設けており、試験参加による不利益は最小化される。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的倫理原則を遵守する。

## C. 研究結果

(1) 「進行胆道癌を対象としたゲムシタビン+S-1併用療法とS-1単剤療法のランダム化第II相試験（JCOG08805）」

1) 登録状況：2009年2月より登録を開始し、予定よりおよそ10ヵ月早い2010年4月に登録を完了した（101例）。

2) 患者背景：ゲムシタビン+S-1併用療法（A群、51例）とS-1単剤療法（B群、50例）の主な背景は、年齢中央値（範囲）：66（39-78）歳、62.5（49-79）歳、男/女：27/24、28/22、PS 0/1：39/12、37/13、胆嚢がん/肝内胆管がん/肝外胆管がん/乳頭部がん：19/20/9/3、19/15/11/5、Stage II/III/IV/術後再発：2/6/29/14、0/7/32/11、であり、両群間に大きな偏りは見られなかった。

3) 有害事象：A群とB群の主な（10%以上）Grade 3-4の有害事象（%）は、白血球：30、2、ヘモグロビン：12、4、血小板：12、4、好中球：61、4、総ビリルビン：10、14、ALP：8、14、AST：12、14、ALT：14、12、胆管炎：8、12、治療関連死はA群4%（2/51、心筋梗塞、肺炎）、B群0%（0/50）であった。

4) 有効性：A群とB群の成績は、1年生存割合：52.9%、40.0%、生存期間中央値：12.5ヵ月、9.0ヵ月、無増悪生存期間中央値：7.1ヵ月、4.2ヵ月であり、A群のB群に対する生存期間のHRは0.859（95%CI：0.543-1.360）であった。

5) 総括：ゲムシタビン+S-1併用療法は主要評価項目である1年生存率においてS-1単剤療法を上回り、有害反応も許容範囲であり、次相試験における試験治療レジメンとすべきと考えられた。

（2）「進行胆道癌を対象としたゲムシタビン+シスプラチン併用療法（GC療法）とゲムシタビン+S-1併用療法（GS療法）の第III相比較試験（JCOG1113）」  
前述の前相試験（JCOG0805）の成績をうけて、本第III相試験の試験計画を作成し、2012年1月に試験実施計画書をJCOGプロトコール審査委員会に提出。2013年1月1次審査承認され、3月中に最終審査承認予定であり、登録開始に向け準備を進めて

いる。

（3）「切除不能・再発胆道癌を対象としたゲムシタビン+CDDP+WT1ペプチドワクチン併用化学免疫療法とゲムシタビン+CDDP治療の第I/II相試験」  
第I相部分の症例登録を開始し、DLTの評価が6例で実施され、DLTに該当する有害事象は認められなかった。主なグレード3以上の有害事象は好中球減少83.3%、白血球減少66.7%であり、化学療法剤による有害反応と考えられた。ワクチンに起因すると考えられる有害反応は、グレード1の接種部位反応が1例に認められたのみであった。現在先進（旧高度）医療への申請中である。

#### D. 考察

我が国における胆道がん死亡数は増加傾向にあり、悪性腫瘍死亡数の第6位となっている。切除不能胆道がんに対しては、ゲムシタビンを中心とする化学療法が行われているが、その治療成績は生存期間中央値が8か月前後ときわめて不良であり、より有効な治療法の開発が切望されている。最近、本邦で開発された経口抗がん剤であるS-1が切除不能胆道がんに対し優れた抗腫瘍効果を示すことが明らかにされ、胆道がんへの適応拡大が承認された。

本研究班では最初に、「進行胆道がんを対象としたゲムシタビン+S-1併用療法とS-1単剤療法のランダム化第II相試験」を実施し、より有用性が期待できるレジメンを慎重に選択し、続いて第III相試験を行って、切除不能胆道がんに対する標準治療法を確立することをめざしている。今回報告したランダム化第II相試験（JCOG0805）は一次治療薬としてS-1を用いる場合にゲムシタビンと併用して用

いるのがよいのか、あるいはS-1単独で用いて、二次治療としてゲムシタビンを用いるのがよいのかを慎重に判断することを目的としている。S-1は複数の癌腫で有効性を示している新しい抗がん剤であり、切除不能胆道がんに対しても新たな標準治療薬として寄与することが期待されてきたが、今回のランダム化第II相試験ではその期待がより強く現実的なものとなった。これらの結果をうけて、標準治療であるゲムシタビン+シスプラチン併用療法と今回選択された試験治療であるゲムシタビン+S-1併用療法の第III相試験が開始されることとなったが、世界的には希少がんとされる胆道がんに対して、本研究が新しい標準治療確立に貢献し、患者に利益をもたらす可能性がさらに高くなったといえる。

胆道がんは依然予後不良な疾患であり、新しい視点からの治療開発戦略も必要と考えられる。我々は別の研究班でWT1ペプチドワクチンの臨床試験を行ってきており、その知見をいかして本研究班において多施設共同試験として本免疫療法の有効性と安全性を検討することとした。胆道がんは我が国には患者が多いにも関わらず新薬開発が遅れており、このような研究を実施することにより本疾患への関心が高まり、新薬治験の導入が促進することも期待したい。

#### E. 結論

「進行胆道がんを対象としたゲムシタビン+S-1併用療法とS-1単剤療法のランダム化第II相試験 (JCOG 0805)」の結果、ゲムシタビン+S-1併用療法が次相試験の試験レジメンとして選択され、現在、「進行胆道がんを対象としたゲムシタビン+シスプラチン併用療法とゲムシタビ

ン+S-1併用療法 (GS療法) の第III相比較試験 (JCOG1113)」の開始準備が進められている。「切除不能・再発胆道癌を対象としたゲムシタビン+CDDP+WT1ペプチドワクチン併用化学免疫療法とゲムシタビン+CDDP治療の第I/II相試験」が開始されている。

F. 健康危険情報  
なし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

外国語論文

1. Furuse J, Ishii H, Okusaka T. The Hepatobiliary and Pancreatic Oncology (HBPO) Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG): History and Future Direction. *Jpn J Clin Oncol*, 2013, 43(1):2-7.
2. Okusaka T, Ueno M, Sato T, Heike Y. Possibility of immunotherapy for biliary tract cancer: how do we prove efficacy? Introduction to a current ongoing phase I and randomized phase II study to evaluate the efficacy and safety of adding Wilms tumor 1 peptide vaccine to gemcitabine and cisplatin for the treatment of advanced biliary tract cancer (WT-BT trial). *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 2012, 19(4):314-318.
3. Fukutomi A, Furuse J, Okusaka T, Miyazaki M, Taketsuna M, Koshiji M, Nimura Y. Effect of biliary drainage on chemotherapy in patients with biliary tract cancer: an exploratory analysis of the BT22

- study. *HPB*, 2012, 14(4):221-227.
4. Kaida M, Morita-Hoshi Y, Soeda A, Wakeda T, Yamaki Y, Ueno H, Kondo S, Morizane C, Ikeda M, Okusaka T, Takaue Y, Heike Y. Phase 1 trial of wilms tumor 1 (WT1) peptide vaccine and gemcitabine combination therapy in patients with advanced pancreatic or biliary tract cancer. *J Immunother*, 2011, 34(1):92-99.
  5. Furuse J, Okusaka T. Review: Targeted therapy for biliary tract cancer. *Cancers*, 2011, 3(2):2243-2254.
  6. Furuse J, Okusaka T, Bridgewater J, Taketsuna M, Wasan H, Koshiji M, Valle J. Lessons from the comparison of two randomized clinical trials using gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer. *Critical Reviews in Oncol Hematol*, 2011, 80(1):31-39.
  7. Okusaka T, Nakachi K, Fukutomi A, Mizuno N, Ohkawa S, Funakoshi A, Nagino M, Kondo S, Nagaoka S, Funai J, Koshiji M, Nambu Y, Furuse J, Miyazaki M, Nimura Y. Gemcitabine alone or in combination with cisplatin in patients with biliary tract cancer: a comparative multicenter study in Japan. *Br J Cancer*, 2010, 103(4):469-474.
  8. Iwasa S, Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Ikeda M, Kondo S, Tanaka T, Nakachi K, Mitusnaga S, Kojima Y, Hagihara A, Hiraoka N. Cisplatin and etoposide as first-line chemotherapy for poorly differentiated neuroendocrine carcinoma of the hepatobiliary tract and pancreas. *Jpn J Clin Oncol*, 2010, 40(4):313-318.
  9. Ojima H, Yoshikawa D, Ino Y, Shimizu H, Miyamoto M, Kokubu A, Hiraoka N, Morofuji N, Kondo T, Onaya H, Okusaka T, Shimada K, Sakamoto Y, Esaki M, Nara S, Kosuge T, Hirohashi S, Kanai Y, Shibata T. Establishment of six new human biliary tract carcinoma cell lines and identification of MAGEH1 as a candidate biomarker for predicting the efficacy of gemcitabine treatment. *Cancer Sci*, 2010, 101(4):882-888.
  10. Sugiyama E, Kaniwa N, Kim S-R, Hasegawa R, Saito Y, Ueno H, Okusaka T, Ikeda M, Morizane C, Kondo S, Yamamoto N, Tamura T, Furuse J, Ishii H, Yoshida T, Saijo N, Swada J. Population pharmacokinetics of gemcitabine and its metabolite in Japanese cancer patients. *Clin Pharmacokinet*, 2010, 49(8):549-558.
  11. Takashima A, Morizane C, Ishii H, Nakamura K, Fukuda H, Okusaka T, Furuse J. Randomized phase II study of gemcitabine plus s-1 combination therapy vs. S-1 in advanced biliary tract cancer. Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0805). *Jpn J Clin Oncol*, 2010, 40(12):1189-1191.
  12. Soeda A, Morita-Hoshi Y, Kaida M, Wakeda T, Yamaki Y, Kojima Y, Ueno H, Kondo S, Morizane C, Ikeda M, Okusaka T, Heike Y. Long-term administration of wilms tumor-1 peptide vaccine in combination with gemcitabine causes severe local skin inflammation at



- injection sites. *Jpn J Clin Oncol*, 2010, 40(12):1184-1188.
13. Suzuki E, Furuse J, Ikeda M, Okusaka T, Nakachi K, Mitsunaga S, Ueno H, Morizane C, Kondo S, Shimizu S, Kojima Y, Hagihara A. Treatment efficacy/safety and prognostic factors in patients with advanced biliary tract cancer receiving gemcitabine monotherapy: an analysis of 100 cases. *Oncology*, 2010, 79(1-2):39-45.
  14. Koizumi M, Sata N, Kasahara N, Morishima K, Kaneda Y, Fujiwara T, Ota M, Hyodo M, Yasuda Y. Carcinoid tumor of the gallbladder: Report of two cases. *Clin J Gastroenterol* 2011, 4:323-330.
  15. Hatanaka H, Takada S, Tsukui M, Choi YL, Kurashina K, Soda M, Yamashita Y, Haruta H, Hamada T, Tamada K, Hosoya Y, Sata N, Nagai H, Yasuda Y, Sugano K, Mano H. Identification of the transforming activity of Indian hedgehog by retroviral expression screening. *Cancer Sci*. 2010, 101(1):60-64.
  16. Hatanaka H, Tsukui M, Takada S, Kurashina K, Choi YL, Soda M, Yamashita Y, Haruta H, Hamada T, Ueno T, Tamada K, Hosoya Y, Sata N, Yasuda Y, Nagai H, Sugano K, Mano H. Identification of transforming activity of free fatty acid receptor 2 by retroviral expression screening. *Cancer Sci*. 2010, 101(1):54-59.
  17. Inaba Y, Arai Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Aramaki T, Sone M, Kumada T, Tanigawa N, Anai H, Yoshioka T, Ikeda M ; for Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group (JIVROSG). Phase I/II Study of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy With Gemcitabine in Patients With Unresectable Intrahepatic Cholangiocarcinoma (JIVROSG-0301). *Am J Clin Oncol*. 2011, 34(1):58-62.
  18. Yukisawa S, Ishii H, Matsuyama M, Kuraoka K, Takano K, Kamei A, Ozaka M. Outcomes and tolerability of systemic chemotherapy for pancreatic or biliary cancer patients aged 75 years or older. *Jpn J Clin Oncol*. 2011, 41(1):76-80.
  19. Takashima A, Morizane C, Ishii H, Nakamura K, Fukuda H, Okusaka T, Furuse J. Randomized phase II study of gemcitabine plus S-1 combination therapy vs. S-1 in advanced biliary tract cancer: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0805). *Jpn J Clin Oncol*. 2010, 40(12):1189-91.
  20. Furuse J, Kasuga A, Takasu A, Kitamura H, Nagashima F. Role of chemotherapy in treatments for biliary tract cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2012,19(4):337-41.
  21. Furuse J, Nagashima F. Inhibitor of MEK1/2, selumetinib, for biliary tract cancer. *Expert Rev Gastroenterol Hepatol*. 2011, 5(5):579-81
  22. Kobayashi S, Ueno M, Ohkawa S, Andou T, Kameda R, Yamamoto N, Morinaga S. A retrospective study of S-1 monotherapy as second-line treatment

- for patients with advanced biliary tract cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 2012, 42(9):800-806.
23. Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Bhatia V, Shimizu Y. Endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy for malignant lower biliary tract obstruction. *Gastrointest Endosc Clin N Am*. 2012, 22(2):259-269.
  24. Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K. Diagnostic yield of endoscopic retrograde cholangiography and of EUS-guided fine needle aspiration sampling in gallbladder carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2012, 19(6):650-655.
  25. Hara K, Bhatia V, Hijioka S, Mizuno N, Yamao K. A convex EUS is useful to diagnose vascular invasion of cancer, especially hepatic hilus cancer. *Dig Endosc*. 2011, 23(Suppl 1):26-28.
  26. Hara K, Yamao K, Niwa Y, Sawaki A, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Kobayashi Y, Matumoto K, Bhatia V, Shimizu Y, Ito A, Hirooka Y, Goto H. Prospective Clinical Study of EUS-Guided Choledochoduodenostomy for Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. *Am J Gastroenterol*. 2011, 106(7):1239-1245.
  27. Hijioka S, Mekky MA, Bhatia V, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hosoda W, Shimizu Y, Tamada K, Niwa Y, Yamao K. Can EUS-guided FNA distinguish between gallbladder cancer and xanthogranulomatous cholecystitis? *Gastrointest Endosc*. 2010, 72(3):622-627.
  28. Hara K, Yamao K, Mizuno N, Sawaki A, Takagi T, Bhatia V. Endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy. *Dig Endosc*. 2010, 22(2):147-150.
- 日本語論文
1. 坂本康成、上野秀樹、奥坂拓志。膵胆道癌化学療法の最前線。胆・膵疾患診療の最前線・治療／最新の治療戦略とその成果－病診連携のために－。 *Medical Practice*, 29(1):140-144, 2012.
  2. 奥坂拓志、古瀬純司、宮崎 勝、二村雄次。見直される胆道がん診療の新展開。V. 化学療法 1. 進行切除不能胆道がんに対するゲムシタビン＋シスプラチン併用療法～我が国で実施されたランダム化第Ⅱ相試験の成績を中心に～。 *肝胆膵*, 62(6):1131-1139, 2011.
  3. 奥坂拓志。わが国における国際共同臨床試験(企業治験および研究者主導試験)の現状と問題点4) 肝胆膵がん。特集国際共同臨床試験の現状と問題点。 *腫瘍内科*, 7(3):263-268, 2011.
  4. 奥坂拓志。IV. 薬物療法の進歩。 *Liver, Pancreas, Biliary Tract Cancer*. 肝・胆・膵 癌。膵神経内分泌腫瘍 2011 Update. 癌と化学療法, 38(10):1613-1618, 2011.
  5. 奥坂拓志。膵がん・胆道がんの治

- 療ーゲムシタビンから分子標的治療薬まで. 化学療法アップデート. 日経メディカル Cancer Research, 25:39-43, 2011.
6. 森実千種、奥坂拓志. 胆道がんでの臨床試験デザイン. 抗がん剤の開発戦略と承認申請のポイント. 技術情報協会. 東京. 2011年2月. p36-47.
  7. 森実千種、奥坂拓志. 6. 胆道がん. 消化器がん化学療法. 古瀬純司編集. 中外医学社. 東京. 2011年7月. p172-181.
  8. 池田公史, 仲地耕平, 光永修一, 上野秀樹, 森実千種, 近藤俊輔, 奥坂拓志. 全身化学療法の進歩. 消化器外科, 34(7):1069-1076, 2011.
  9. 奥坂拓志, 平家勇司. 癌免疫療法の臨床試験手法. Medical Science Digest, 36(4):18-21, 2010.
  10. 森実千種、奥坂拓志. 胆嚢・胆管がん. 各疾患領域の治療の現状とメディカルニーズのDATE BOOK. 技術情報協会. 東京. 2010年6月. P49-56.
  11. 丹尾幸樹, 上野秀樹, 奥坂拓志. 12 ゲムシタビン療法. 2部1章 従来型抗がん剤とレジメンをもっと知ろう! 消化器がんでよく使われるレジメン. 消化器外科 NURSING 2010 臨時増刊, 62-63, 2010.
  12. 堀之内秀仁, 奥坂拓志. 特集にあたって. 特集 がん診療の考え方・進め方 患者と向き合うための基礎知識. レジデントノート, 12(9):1488-1490, 2010.
  13. 仲地耕平, 池田公史, 光永修一, 上野秀樹, 森実千種, 近藤俊輔, 奥坂拓志. タルセバにおける開発の状況とその効果予測因子. 特集 肝胆膵腫瘍治療学の進歩—この30年—. 胆膵分野: IX. 膵・胆道癌抗がん剤: 2. 膵・胆道癌の抗がん剤 (現在未承認中). 肝胆膵, 61(6): 1290-1295, 2010.
  14. 金丸理人, 小泉大, 佐田尚宏. 胆管内に進展し閉塞性黄疸をきたしたポリープ型十二指腸乳頭部癌の1例. 胆道 25:768-773, 2011
  15. 古瀬純司. 肝・胆道・膵癌の化学療法・分子標的治療. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 24回: 151, 2012.
  16. 市田隆文, 奥坂拓志, 金井文彦, 古瀬純司. 肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的療法の近未来的展望. 肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的療法の近未来的展望. 肝・胆・膵 64(5):735-750, 2012.
  17. 古瀬純司. 肝・胆・膵腫瘍の薬物療法—最近の進歩. 諸言 肝・胆・膵がんに対する薬物療法の動向. 腫瘍内科 9(6):635-640, 2012.
  18. 古瀬純司, 森実千種, 古川正幸, 山崎秀哉, 味木徹夫. 胆道癌化学療法はこう変わる, こう変える. 膵・胆道癌 Frontier 2(2):69-75, 2012.
  19. 古瀬純司. 消化器がん化学療法. 主要レジメン理解&看護ポイント. 胆道がんのレジメン. GEM+CDDP. 消化器外科 Nursing 17(9):952-955, 2012.
  20. 春日章良, 成毛大輔, 有馬志穂, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 吉田正, 野村久祥, 川上英泰, 臼井浩明, 畔蒜祐一郎, 長澤知徳, 古瀬純司. 胆膵領域におけるDPCと電子カルテ時代に対応したクリニカルパス. 膵胆道癌外来化学療法におけるクリニカルパス. 胆と膵 33(9):745-751, 2012.
  21. 古瀬純司, 成毛大輔, 有馬志穂, 春日

- 章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫. 臓器別最新データ. 胆道癌. 胆道癌の非切除・再発例. 臨床外科 67(11): 207-213, 2012.
22. 有馬志穂, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司. Liver, Pancreas, Biliary Tract Cancer. 肝・胆・膵癌—胆道癌治療の新展開. 切除不能進行胆道がんの化学療法への進歩. 癌と化学療法 39(10):1490-1493, 2012.
23. 古瀬純司. 特集 がん医療におけるプライマリケア医の役割を考える. ここまで進歩した外来がん化学療法. 肝癌・胆道癌・膵癌. 日本医事新報社 4627:57-60, 2012.
24. 古瀬純司. VI. 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 肝・胆道・膵癌化学療法の最近の動向. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2012. 有吉寛総監修. 東京, メディカルレビュー社, 2012. p. 262-273
25. 鈴木英一郎, 古瀬純司. VI. 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 胆道癌. A. 保険医療で可能な regimen. 1st line. GC(GEM+CDDP) 療法. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2012. 有吉寛総監修. 東京, メディカルレビュー社, p. 278-279. 2012.
26. 鈴木英一郎, 古瀬純司. VI. 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 胆道癌. A. 保険医療で可能な regimen. 1st line. GEM. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2012. 有吉寛総監修. 東京, メディカルレビュー社, p. 280-281. 2012.
27. 鈴木英一郎, 古瀬純司. VI. 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 胆道癌. A. 保険医療で可能な regimen. S-1. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2012. 有吉寛総監修. 東京, メディカルレビュー社, p. 282-283. 2012.
28. 古瀬純司. 胆道がん. What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂 2 版. 佐藤隆美, 藤原康弘, 古瀬純司, 大山優編. 東京, 南山堂, p. 415-425. 2012.
29. 古瀬純司. 胆嚢・胆管がん. かかりつけ医から専門医への質問. 治療増刊号 93:915-917, 2011.
30. 古瀬純司, 廣川智, 北村浩, 長島文夫. 胆道癌化学療法の最新情報. 胆と膵 32(4):277-282, 2011.
31. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫. 進行胆道癌に対する S-1 療法の治療成績. 肝胆膵 62(6):1140-1145, 2011.
32. 古瀬純司, 北村浩, 高須充子, 長島文夫. 胆道がん化学療法と看護のポイント. 消化器外科 NURSING 2011 秋季増刊:98-108, 2011.
33. 古瀬純司. 膵・胆道癌. 外来癌化学療法 2(3): 21-25, 2011.
34. 古瀬純司, 北村浩, 高須充子, 春日章良, 長島文夫. 臓器別薬物療法. 8. 胆道癌 ③進行・再発(切除不能を含む)治療. 臨床外科 66(11)増刊号:201-208, 2011.
35. 古瀬純司, 高須充子, 北村浩, 春日章良, 長島文夫. 肝門部胆管癌. (2)治療 e. 化学療法. 臨床消化器内科 26(13):1761-1767, 2011.
36. 高須充子, 古瀬純司. 胆道がんの化学療法の適応と実際. 臨床腫瘍プラクティス 7(4):381-384, 2011.
37. 土岐真朗, 山口康晴, 高橋真一, 古瀬純司. 閉塞性黄疸より診断に至った胆管癌. 症例から学ぶメディカルオンコロジー. 中川和彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 朴成和, 直江知樹編. 大阪, 医薬

- ジャーナル, p. 236-245. 2011.
38. 古瀬純司, 鈴木英一郎, 廣川智, 北村浩, 長島文夫. 胆管癌に対する化学療法. 日本消化器病学会雑誌 107 (7) : 1102-1108, 2010.
  39. 古瀬純司, 鈴木英一郎, 廣川智, 北村浩, 長島文夫. 胆膵診療における細胞診・生検診断の意義. 胆と膵 31 (9) : 809-813, 2010.
  40. 古瀬純司. 抗癌剤【肝胆膵】. 消化器外科レビュー2010. 渡邊昌彦, 國土典広, 土岐祐一郎監修. 東京, 総合医学社, 2010. p.199-204.
  41. 古瀬純司, 鈴木英一郎, 長島文夫. 膵・胆道がんに対する薬物療法. 消化器がん薬物療法 2010. 市倉隆, 市川度編. 東京, 日本メディカルセンター, 2010. p. 208-215.
  42. 鈴木英一郎, 古瀬純司. 切除不能進行胆道がんの標準治療はなにか? GEM と S-1 をどう使うか? 胆道がん. 肝・胆・膵のがん. EBM がん化学療法・分子標的治療法. 大津敦, 古瀬純司, 中川和彦, 徳田裕, 南博信, 畠清彦, 田村和夫編. 東京, 中外医学社, p. 130-133. 2010
  43. 上野誠、奥坂拓志、平家勇司、大川伸一. 進行胆道癌に対する塩酸 Gemcitabine+WT1 ペプチドワクチン併用化学免疫療法. 胆と膵, 2010, 32 (2) :153-155.
  44. 谷口浩也, 福富晃. 胆道系、膵臓系腫瘍 Cetuximab. 肝・胆・膵 2012, 64:701-710
  45. 福富晃, 朴成和. 胆道癌に対する分子標的治療の臨床試験の現状と展望. 胆と膵 2010, 31:409-416
  46. 中森正二. 膵・胆道癌に対する外科的治療の現状と問題点. Approach to Oncology, 4 : 4-6, 2011.
  47. 中森正二、宮本敦史、浅岡忠史. 胆道がん手術一切除適応となるのはどこまでか? 臨床腫瘍プラクティス, 7 (4) : 370-373, 2011.
  48. 井岡達也、片山和宏. 肝内胆管癌に対する化学療法の進歩. 日本消化器病学会誌, 2012 : 109(11) : 1895-1901
  49. 浅木彰則, 井口東郎. 8章 胆道がんにおける新しい予後予測因子とその臨床応用及び求められる治療薬像. 新しいバイオマーカー/予測因子による個別化医療時代に求められる抗がん剤開発 (佐藤章弘 編):185-192, 2011. (株)技術情報協会, 東京.
2. 学会発表
1. Ueno M, Okusaka T, Mizusawa J, Takashima A, Morizane C, Ikeda M, Hamamoto Y, Ishii H, Boku N, Furuse J, Hara H, Fukutomi A, Furukawa M, Nagase M, Yamaguchi T, Yamao K, Nakamori S, Ioka T, Iguchi H, Miyakawa H, Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Randomized phase II trial of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus S-1 in advanced biliary tract cancer: Results of the Japan clinical oncology group study (JCOG0805). (Poster Discussion, Abstract 4031) ASCO Annual Meeting 2012, June 1-5, 2012, Chicago, IL, U.S.A.
  2. Ikeda M, Okusaka T, Mizusawa J, Takashima A, Morizane C, Ueno M, Hamamoto Y, Ishii H, Hara H, Fukutomi A, Furukawa M, Nagase M, Yamaguchi T, Boku N, Furuse J. Randomized phase II trial gemcitabine plus S-1 combination

- therapy versus S-1 in advanced biliary tract cancer: Results of the Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0805) 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2012年7月26日-28日. 於:大阪市
3. 仲地耕平、奥坂拓志、井口東郎、島村智崇、井岡達也、細川 歩、池田公史、森実千種、浅木彰則、古瀬純司. 進行肝内胆管癌に対するシスプラチン肝動注化学療法が多施設共同第II相試験 (OS24 肝胆膵がん①02-054) 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2012年7月26日-28日. 於:大阪市
  4. 水野伸匡、松尾恵太郎、山雄健次、二村雄次、池田公史、仲地耕平、福富晃、大川伸一、古川正幸、船越顕博、榑野正人、平野聡、宮崎勝、奥坂拓志、古瀬純司. Body mass indexは胆道癌に対する gemcitabine/cisplatin 併用療法の効果修飾因子である 第50回日本癌治療学会学術集会 2012/10/25 横浜
  5. Hashimoto J, Morizane C, Kondo S, Ueno H, Nakachi K, Mitsunaga S, Ikeda M, Arai Y, Okusaka T. (一般口演) 肝胆膵がん(1) 胆道がん Incidence and risk factors for cholangitis during systemic chemotherapy among patient with advanced biliary tract cancer. (03-003) 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於:横浜
  6. Shoji H, Morizane C, Taniyama T, Yamaguchi T, Kondo S, Ueno H, Okusaka T. (一般口演) Thirty-four cases of advanced ampullary carcinoma: experience at a single center. (03-020) 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於:横浜市
  7. 奥坂拓志. 要望演題1 (R-1~6、座長). 第47回日本胆道学会学術集会. 2011年9月16日-17日. 於:宮崎市
  8. Shoji H, Morizane C, Taniyama T, Yamaguchi T, Kondo S, Ueno H, Okusaka T. Thirty-four cases of advanced ampullary carcinoma receiving non-surgical treatment: experience at a single center. The 2011 European Cancer Organisation, September, 23-27, Stockholm, Sweden.
  9. Kojima Y, Ikeda M, Ueno H, Morizane C, Kondo S, Nakachi K, Mitsunaga S, Ohno I, Shimizu S, Okusaka T. Phase I study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory biliary tract cancer (BTC) patients. The 2011 European Cancer Organisation, September, 23-27, Stockholm, Sweden.
  10. 奥坂拓志. (特別企画その2 癌ペプチドワクチン療法ガイダンス) Phase I/II試験. 第24回日本バイオセラピー学会学術総会. 2011年12月1日-2日. 於:和歌山市
  11. Suzuki E, Ikeda M, Okusaka T, Nakamori S, Ohkawa S, Nagakawa T, Bokun N, Yamaguchi H, Sugimori K, Furuse J. A multicenter phase II of S-1 in gemcitabine-refractory biliary tract cancer. (Poster Session) 46th ASCO, June 4-8, 2010, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 28(15S, Part I of II): 336S(abstract No.4145), 2010.
  12. Kaida M, Morita-Hoshi Y, Wakeda T, Yamaki Y, Soeda A, Kondo S, Morizane C, Ueno H, Okusaka T, Heike Y. Phase I trial of gemcitabine and Wilms' tumor 1 peptide vaccine combination therapy in patients with advanced pancreatic or biliary tract cancer. 46th ASCO, June 4-8, 2010, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 28(Suppl): e13049, 2010.
  13. 奥坂拓志. (ランチョンセミナー) 膵・胆道がんの化学療法を考える. 第

- 65 回日本消化器病外科学会総会.  
2010年7月15日. 於:下関市
14. 奥坂拓志. 進行膵がん・進行胆道がんに対するゲムシタビン+WT1 ペプチドワクチン併用化学免疫療法臨床第 I 相試験. (パネルディスカッション) 第 48 回日本癌治療学会学術集会. 2010年10月28日-30日. 於:京都市.
  15. 山口智宏、鈴木英一郎、池田公史、奥坂拓志、中森正二、大川伸一、長谷川達哉、朴 成和、柳本泰明、古瀬純司. ゲムシタビン耐性胆道癌における S-1 の多施設共同臨床第 2 相試験. (優秀演題) 第 48 回日本癌治療学会学術集会. 2010年10月28日-30日. 於:京都市
  16. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤 巖、尾形佳郎:ミニビデオワークショップ「PPPD 今永法における膵空腸吻合—我々の工夫—. 第 24 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2012年5月30日 於:大阪市
  17. 白川博文、菱沼正一、富川盛啓、尾澤 巖、尾形佳郎:ミニビデオシンポジウム「当センターにおける尾側膵切除術後合併症についての検討」. 第 24 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2012年5月31日 於:大阪市
  18. 齋藤智明、白川博文、富川盛啓、尾澤 巖、尾形佳郎、菱沼正一:当センターにおける十二指腸乳頭部癌に対する外科切除の成績. 第 24 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2012年5月31日 於:大阪市
  19. 白川博文、菱沼正一、富川盛啓、尾澤 巖、尾形佳郎:膵頭十二指腸切除術今永法におけるドレーン留置の工夫. 第 39 回膵切研究会 2012年8月25日 於:東京
  20. 白川博文、富川盛啓、尾澤 巖、菱沼正一、尾形佳郎:当院における中・下部胆管癌切除例の予後因子と再発形式の検討. 第 48 回日本胆道学会学術集会 2012年9月21日 於:東京
  21. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤 巖、尾形佳郎:幽門輪温存膵頭十二指腸切除術(PPPD)今永法における安全な膵切離と吻合法—われわれの工夫とその成績—. 第 66 回日本消化器外科学会総会 2011年7月15日 於:名古屋
  22. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤 巖、尾形佳郎.(ミニシンポジウム 5 膵頭十二指腸切除術後 ISGPF grade B, C の膵液瘻防止対策)当センターの幽門輪温存膵頭十二指腸切除術(PPPD)今永法における膵液瘻に対する工夫. 第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2011年6月8日 於:東京
  23. 白川博文、齋藤智明、富川盛啓、菱沼正一、尾澤 巖、尾形佳郎:膵頭十二指腸切除術今永法再建における膵空腸吻合部ドレーン留置の工夫. 第 38 回日本膵切研究会 2011年8月27日 於:久留米市
  24. 小野寺馨、割田悦子、宮本洵子、西智弘、山中康弘、浜本康夫(示説 胆道 1) 切除不能・再発胆道癌に対するゲムシタビン+シスプラチン併用療法の安全性の検討. 第 49 回日本癌治療学会学術集会 2011年10月27日-29日. 於:名古屋市
  25. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤 巖、尾形佳郎:ビデオポスター「当センターにおける膵空腸吻合手技の工夫」. 第 22 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2010年5月27日 於:仙台市
  26. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤 巖、尾形佳郎:Imanaga procedure as gastrointestinal reconstructi

- on after pylorus-reserving pancreaticoduodenectomy for periampullary diseases. 第17回日本チェコ外科シンポジウム 2010年6月7日 於:金沢市
27. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤巖、尾形佳郎:ビデオポスター「当センターにおける膵空腸吻合手技の工夫」. 第22回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2010年5月27日 於:仙台市
  28. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤巖、尾形佳郎:ミニシンポジウム「当センターの幽門輪温存膵頭十二指腸切除術(PPPD)今永法における膵液瘻に対する工夫」. 第23回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2010年6月10日 於:東京
  29. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤巖、尾形佳郎:シンポジウム「膵頭部領域疾患に対する幽門輪温存膵頭十二指腸切除術(PPPD)今永法の意義」 第65回 日本消化器外科学会総会 2010年7月14日 於:下関
  30. 佐田尚宏、小泉大、志村国彦、兼田裕司、笠原尚哉、森嶋計、田口昌延、三木厚、遠藤和洋、藤原岳人、清水敦、俵藤正信、安田是和. 当科における膵縮小手術の成績と工夫. 第112回日本外科学会 2012/4/12 千葉(日本外科学会雑誌 113:臨増2:456, 2012)
  31. 谷口理丈、佐久間康成、藤原岳人、太田学、安田寿彦、佐田尚宏、安田是和. 胆管小細胞癌の1例. 第24回日本肝胆膵外科学会 2012/5/30 大阪(日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 24回 Page425)
  32. 小泉大、佐田尚宏、笠原尚哉、森嶋計、兼田裕司、藤原岳人、太田真、俵藤正信、安田是和 十二指腸乳頭部癌に対する経十二指腸的・経腹腔的乳頭切除術. 第66回日本消化器外科学会 2011/7/13 名古屋(日本消化器外科学会総会 66回 Page384)
  33. 三木厚、伊藤誉、清水敦、俵藤正信、佐田尚宏、安田是和. 胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)の1例. 第73回日本臨床外科学会 2011/11/17 東京(日本臨床外科学会雑誌 72 卷増刊 Page818)
  34. 兼田裕司、小泉大、笠原尚哉、森嶋計、菱沼英紀、藤原岳人、太田真、俵藤正信、佐田尚宏、安田是和. 胆管癌長軸方向進展度診断におけるMDCTの有用性について. 第111回日本外科学会 2011年誌上開催 東京(日本外科学会雑誌 112 卷臨増 1-2 Page402)
  35. 森嶋計、齋藤心、志村国彦、小泉大、藤原岳人、佐久間康成、清水敦、俵藤正信、仁木利郎、佐田尚宏、安田是和. 胆嚢腺扁平上皮癌の臨床的特徴と免疫組織化学的検討第110回日本外科学会 2010/4/8 名古屋(日本外科学会雑誌 111 卷臨増 2 Page686)
  36. 長瀬通隆、金丸理人、小泉大、志村国彦、藤原岳人、佐久間康成、清水敦、俵藤正信、佐田尚宏、上田真寿、藤井博文、安田是和. 胆道がん化学療法の実状. 第48回日本癌治療学会 2010/10/28 京都(日本癌治療学会誌(0021-4671)45 卷 2号 Page912)
  37. 中村和貴、山口武人、須藤研太郎、北川善康、中村奈海、相馬 寧、三梨桂子、廣中秀一、原 太郎、傳田忠道. 切除不能胆道癌に対する2次治療以降のGEM+CDDP併用療法の検討. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2012年7月26日-28日. 於:大阪市
  38. 中村和貴、山口武人、須藤研太郎、喜



- 多絵美里、北川善康、中村奈海、相馬 寧、三梨桂子、廣中秀一、原 太郎、傳田忠道. 切除不能胆道癌に対する2次治療以降のGEM+CDDP併用療法の検討. 第54回日本消化器病学会大会(JDDW2012). 2012年10月10日-13日. 於:神戸市
39. 中村和貴、山口武人、須藤研太郎、稲垣千晶、喜多絵美里、北川善康、中村奈海、相馬 寧、鈴木拓人、三梨桂子、廣中秀一、原 太郎、傳田忠道. GEM+CDDP併用療法導入による切除不能胆道癌に対する治療の変化. 第50回日本癌治療学会学術集会. 2012年10月25日-27日. 於:横浜市
40. 中村和貴、山口武人、貝沼 修. 切除不能胆道癌に対する全身化学療法と長期予後因子の検討. 第53回日本消化器病学会大会(JDDW2011). 2011年10月20日-23日. 於:福岡市
41. 小西大、池田公史、仲地耕平. 胆道癌根治切除例に対するS-1による術後補助化学療法の多施設共同臨床試験. 第48回日本胆道学会学術集会. 2012/09/21 東京
42. 高橋秀明、光永修一、清水怜、大野泉、小島康志、仲地耕平、池田公史、井元章、落合敦志. 胆膵がんCRP高値例での胆管炎の診断におけるプロカルシトニンの意義. 第8回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2010/03/18-19 東京
43. 古瀬純司: 肝・胆道・膵癌の化学療法・分子標的治療. 教育セミナー「医の倫理」・「肝胆膵癌の手術を取り巻く集学的治療」第24回日本肝胆膵外科学会学術集会. 2012. 5. 30, 大阪市
44. Toki M, Furuse J, Takahashi S: Collaboration between oncologists and endoscopists in advanced pancreatic and biliary tract cancers. シンポジウム17. Role of oncologists and endoscopists in the management of biliary tract and pancreatic disease. 第84回日本消化器内視鏡学会総会. 2012. 10. 12, 神戸市
45. 古瀬純司. 膵・胆道癌の化学療法. 最新情報と今後の展望. 第10回神戸胆道癌・膵癌治療研究会, 2011年7月1日, 神戸市
46. 古瀬純司. 胆道癌における最新の化学療法. 第16回東京胆道懇話会, 2011年7月8日, 東京
47. 古瀬純司. 膵・胆道癌の化学療法 最新情報と今後の展望. 膵・胆道癌化学療法講演会, 2011年8月4日, 倉敷市
48. 古瀬純司. 膵・胆道癌化学療法の最新情報. 第86回中国四国外科学会総会・第16回中国四国内視鏡学外科学研究会, 2011年9月1日, 広島市
49. 古瀬純司. 外科と化学療法「胆膵癌」. 平成22年度日本外科学会生涯教育セミナー九州地区大会, 2010年5月8日, 宮崎市
50. 古瀬純司. 膵・胆道癌化学療法のエビデンス創出のために. 第22回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2010年5月26日, 仙台市
51. 古瀬純司. 胆道癌の化学療法—最新の話題と今後の展望—. 第46回日本胆道学会学術集会, 2010年9月24日, 広島市
52. 古瀬純司. 胆道癌化学療法の問題点, 今後の展望. 胆道癌診療ガイドラインの普及と改訂に向けた公聴会, 2010年9月24日, 広島市
53. 古瀬純司. 胆道・膵癌の化学療法—標準治療と最近の進歩—. 第17回日本消

- 化器病学会関東支部教育講演会, 2010年11月3日, さいたま市
54. 古瀬純司. 胆道・膵癌の化学療法—最近の動向—. 第94回日本消化器病学会中国支部例会, 第105回日本消化器内視鏡学会中国地方会, 2010年11月6日, 松江市
  55. 古瀬純司. 肝・胆道・膵がんにおける分子標的治療. 第43回日本内科学会中国地方会生涯教育講演会, 2010年11月14日, 岡山市
  56. Furuse J. Update of Systemic Chemotherapy for Biliary Tract Cancer. 14th Annual Meeting of the Taiwan Cooperative Oncology Group, 2010.11.21, Taipei, Taiwan
  57. Kameda R, Ando T, Kobayashi S, Ueno M, Ohkawa S. Evaluation of chemotherapy with cisplatin plus gemcitabine after failure of gemcitabine alone for unresectable or recurrent biliary tract cancer. ASCO GI 2012, 2012/01/19-21, San Francisco, USA
  58. 亀田亮, 大川伸一, 安藤知子, 小林智, 上野誠, 山本直人, 森永聡一郎 切除不能胆管細胞癌に対する全身化学療法の成績. 第48回日本肝臓学会総会, 2012/6/7-8, 於: 金沢市
  59. 上野誠, 大川伸一, 安藤知子, 亀田亮, 小林智, Efficacy and safety of S-1 as second-line chemotherapy for patients with advanced biliary tract cancer. 第10回日本臨床腫瘍学会 2012/7/26-28, 於: 大阪市
  60. 小林智, 上野誠, 大川伸一, 進行胆道癌におけるGC療法の蓄積毒性と長期投与の可能性. 第48回日本胆道学会 2012/9/20-21, 於: 東京都
  61. 小林智, 安藤知子, 亀田亮, 上野誠, 大川伸一. 高齢胆道癌患者におけるGC療法の安全性についての検討. 第50回日本癌治療学会 2012/10/25-27 於: 横浜市
  62. 小林智, 上野誠, 大川伸一, 亀田亮. 切除不能・再発担当癌に対する全身化学療法—GEMとS-1の現状と問題点. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011/7/21-23. 於: 横浜市
  63. 小林智, 上野誠, 安藤和子, 亀田亮, 山本直人, 森永聡一郎, 大川伸一. 胆道腫瘍の良悪性鑑別診断におけるDiffusion-weighted MRの有用性. 第46回日本胆道学会. 於: 宮崎市 I
  64. 上野 誠, 大川伸一, 小林智, 安藤知子, 亀田亮. 化学療法施行非切除胆道癌における胆管ステント閉塞の意義. JDDW2011 2011/10/20-23. 於: 福岡市
  65. 小林智, 上野誠, 大川伸一. 切除不能胆道癌に対する全身化学療法の現状から見たガイドラインの評価. 第46回日本胆道学会, 2010/9/24-25, 於: 広島市.
  66. 小林智, 亀田亮, 上野誠, 宮川薫, 大川伸一. 切除不能胆道癌に対する全身化学療法発展と現状. 第48回日本癌治療学会. 2010/10/28-30. 於: 京都市
  67. 金子 卓, 杉森 一哉, 三輪 治生, 田邊 暢, 高 蓮浩, 沼田和司, 田中克明, 前田 慎. 肝門部悪性胆管狭窄に対するチューブステント胆管内留置. 第83回日本消化器内視鏡学会総会. 2012年5月. 於: 東京
  68. 三輪治生, 杉森一哉, 金子 卓, 田中克明, 前田 慎. 当院での超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術(EUS-BD)の施行経験. 第57回神奈川県消化器病研究会, 2011年6月. 於: 神奈

川

69. 金子 卓、杉森一哉、手塚 瞬、亀田英里、國司 洋佑、沼田 和司、田中克明、前田 慎。「当院における悪性胆道狭窄に対するチューブステント胆管内留置法の現状」第92回日本消化器内視鏡学会関東地方会。2011年6月10～11日。於：東京
70. 三輪治生、杉森一哉、金子 卓、高蓮浩、沼田和司、田中克明、前田 慎。「肝門部悪性胆管狭窄に対するチューブステント胆管内留置」第47回胆道学会学術集会。2011年9月16日～17日。於：宮崎
71. 金子 卓、杉森一哉、手塚 瞬、亀田英里、國司洋佑、沼田和司、田中克明、前田 慎。「非切除胆道癌におけるチューブステント胆管内留置法の検討 - メタリックステントとの比較 -」JDDW2011。2011年10月20日～23日。於：福岡
72. 柴田泰、戸高明子、福富晃、田伏弘行、船越太郎、濱内諭、谷口浩也、對馬隆浩、横田知哉、町田望、山崎健太郎、小野澤祐輔、安井博史、朴成和。肝外胆管癌R1切除例に対する術後化学放射線療法(S-CRT)の治療成績 第49回日本癌治療学会。2011年10月27日-29日。於：名古屋市
73. Yamao K, Hara K, Hijioka S, Itoi T. New challenge for the diagnosis of bile duct cancer. 2. Recent update on endoscopic diagnosis. The 7th International Single Topic Symposium of the Korean Association of HBP Surgery. Bile duct Cancer. 2012 October 13-14. (Soeul, Korea)
74. Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Sawaki A, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Saeki A, Akabane A, Haba S, Ogura T, Shimizu S, Tomono T, Niwa Y. EUS-guided choledochoduodenostomy (EUS-CDS) for patients with malignant biliary obstruction. 18th United European Gastroenterology Week (UEGW), 2010 October 23-27. (Barcelona)
75. Hijioka S, Mekky M M, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Imamura H, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Yamao K. Diagnosis utility of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for diagnosis of gallbladder mass lesions. 2010 Digestive Disease Week, 2010 May 1-5. (New Orleans)
76. Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Sawaki A, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Saeki A, Akabane A, Haba S, Ogura T, Shimizu S, Tomono T, Niwa Y. EUS-guided choledochoduodenostomy (EUS-CDS) for patients with malignant lower biliary obstruction. 17th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography, 2010 November 12-14. (Shanghai)
77. Yamao K. Biliary drainage. 17th International Symposium on Endoscopic Ultrasonography, 2010 November 12-14. (Shanghai)
78. Hijioka S, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Imamura H, Senda Y, Sano T, Shimizu Y, Nimura Y. Diagnostic utility of EUS-guided FNA for diagnosis of gallbladder mass lesions 9th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2010 April 18-22. (Buenos Aires)
79. 浅木彰則、灘野成人、中島直美、松本俊彦、梶原猛史、仁科智裕、堀伸一郎、大田耕司、越智誉司、濱本 泰、片岡

正明, 井口東郎. 胆道がんに対する放射線治療の検討. 第 50 回日本癌治療学会学術集会, 2012/10/25-27, 横浜.

80. 井口東郎. 胆・膵領域癌における化学療法の前線. 日本消化器病学会教育講演会(四国支部), 2012/6/10, 高松

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし